



—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療
先進医療の推進
良き歯科医師の育成

発行責任者 病院長 馬場 一美
編集責任者 広報委員長 丸岡 靖史
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1
TEL 03-3787-1151(代表)

ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

医療における安全と安心とは？

インプラント歯科 科長 宗像 源博

最近、「食の安全・安心」や「安全・安心な街づくり」、「安全・安心な医療の提供」という言葉をテレビやホームページ、病院等で目にすることが多いかと思えます。あたかも安全と安心がセットのように使われていることも多いと思えますが、そもそも安全と安心とは同じ意味なのでしょうか？

安全の意味を簡単に言うと、客観的もしくは科学的に身体に対する危険性が小さい、または危険がない状態を言います。したがって、安全という場合には、主観的に見て危険性(リスク)が少ない状態ではなく、客観的および科学的にみて危険性(リスク)が小さい状態であるということになります。要するに根拠がない安全は安全とは言えないのです。例えば「アレルギーを含む食品に関する表示」や「公共施設のバリアフリー対策」などがこれにあたります。

一方、安心とは、主観的に不安や心配に思うことがない(小さい)こと、危険(リスク)と感ずることがない(小さい)ことを意味します。安心は、心という言葉が含まれている通り、気持ちの問題で、主観的なもの、思っていることになります。

例えば「〇〇産牛のみ使用」とか「天然・自然由来の〇〇食品」とか「〇〇体験談」とかが記載されていると根拠もなく安心してしまうのがこれにあたると思えます。

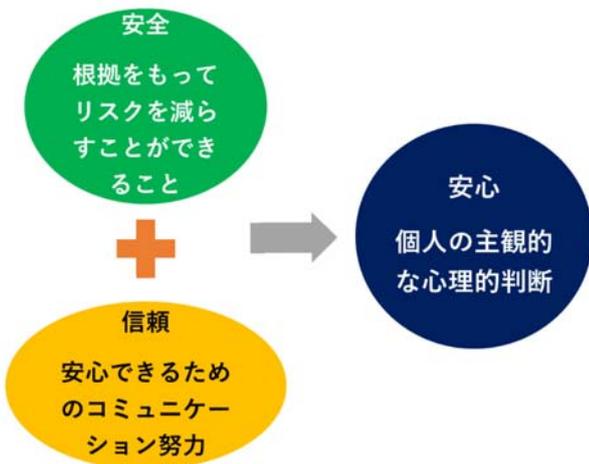


「安全であっても安心するとは限らず、安心して安全であるとは限りません」

わたしたち医療従事者が患者さんに安心していただく医療を提供するためには、滅菌環境でおこなわれる手術室や疾患等の見落としや測定誤差の少ないCT装置等の設備の充実やヒューマンエラーを含む医療事故を未然に防ぐ診療システムを構築するだけでは足りません。

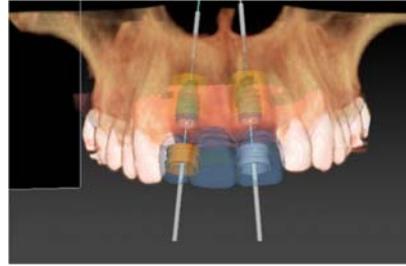
当院を患者さんが安心して受診していただける信頼関係こそが、一番大切な安全と安心の架け橋になっていると思います。そのためには少しでも多くの情報を患者さんと共有して、歯科医師および病院全体に対する信頼関係を築いていかなければ「安全・安心な医療の提供」はできません。

患者さんが少しでも「安心」して医療を受けていただくためにも、治療や検査に対して不安なことや疑問に思っていることがあれば、どんなことでもわたくしたちに、ご相談下さいませ。



そもそもインプラント治療とは、歯が抜けた部分に歯根に相当するチタン製の人工歯根を埋め込み、その上に人工の歯をかぶせる治療法です。インプラント治療は違和感なく咬み合わせを回復させるだけでなく、審美性を回復し、自然な歯並びをよみがえらせることができます。初めての経験で緊張される方もいらっしゃいますが、通常の1本のインプラントの埋入にかかる時間は15～30分程度で、翌日からの仕事は可能です。

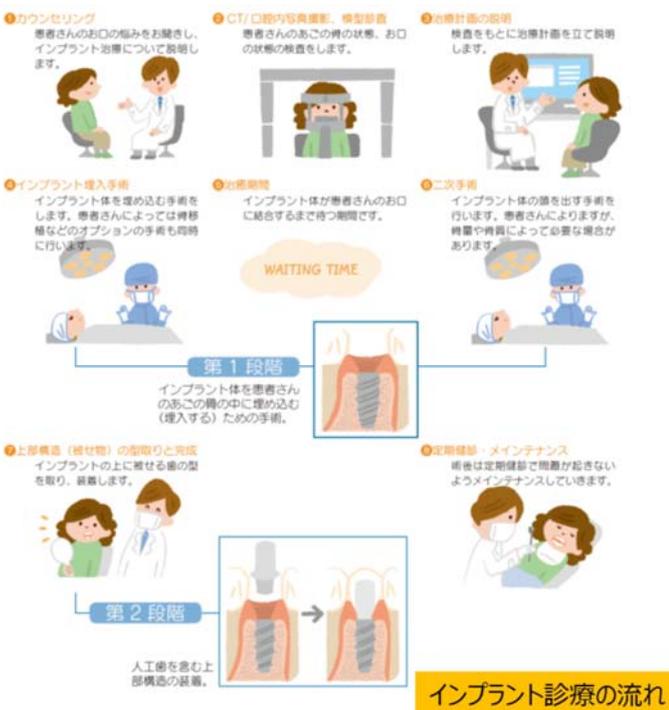
ことが可能になります。



シミュレーション画像の一例



インプラント治療シミュレーションルーム



当院のインプラント治療の特徴として

① 最新のデジタル技術を応用した安全なインプラント治療

当院3階にありますインプラントシミュレーションルームには、さまざまなシミュレーションソフトが導入されています。そこでは、インプラント治療をおこなう患者さんのCT画像を再構築して、デジタルシミュレーション手術を行って手術に望みます。さらに、このシミュレーションから3Dプリンターを用いたサージカルガイド(インプラントの埋め込む位置や方向を制御する装置)を作製することによって、より安全でよりの確な位置にインプラントを埋め込む

② 多方面の専門分野が集まったインプラントカンファレンス

当院で行われる全てのインプラント治療は日本有数の学会指導医数を誇るインプラントセンターカンファレンスにおいて、インプラント歯科・補綴歯科・顎顔面口腔外科・高齢者歯科・歯周病科・歯科放射線科の専門家が集まって最善の治療方針を検討いたします。

③ 滅菌環境の整った手術室の使用と全身状態に対応した静脈麻酔下でのインプラント手術の実施

インプラントの手術は全て滅菌環境の整った手術室を使用し、高血圧や糖尿病、心疾患等のお病気をお持ちの方やご高齢の方、手術が初めてで怖い方、嘔吐反射が激しい方には、歯科麻酔科と連携して静脈麻酔下にて安全なインプラント治療を行っておりますので、インプラント治療に不安な方も遠慮なくご相談にきてください。



滅菌環境の整った当院手術室

「最近、うまく噛めない！ 食べこぼしがある！
食事のさいに少しむせる！」

こんな症状はありませんか？ それは、口腔機能低下(オーラルフレイル)の始まりかもしれません。「口腔機能低下」とは、加齢により口腔内の「感覚」「咀嚼」「嚥下」「唾液分泌」などの機能が少しずつ低下してくる症状です。「口腔機能低下」を早期に自覚することで生涯にわたり、食べることを楽しみ、会話に花を咲かせ、笑顔が続く健康長寿を支えます。

「口腔機能低下」は2018年4月から保険診療で「口腔機能低下症」という病名が付けられ、その検査を行うことができるようになりました。当科ではこの口腔機能低下の診断を行うことができます。また、「口腔機能低下症」を放置すると「口腔機能障害」になってしまいます。これは「摂食嚥下障害」や「咀嚼障害」などの回復が難しい症状です。ただし、「口腔機能低下症」で対処すれば改善することができます。そのためにも多くの方々に「口腔機能低下症」というお口の病気を知っていただき、早期に対処をしていただきたいと思います。

〈対象となる患者さん〉

70歳以上の患者さんと65歳以上で基礎疾患があり、お体の状態を観察しながら治療を行わなければならない患者さんや、医科の先生との連携が必要な患者さんの診療を行っています。いわゆるご高齢の患者さんの一般歯科診療(むし歯の治療や入れ歯の製作)を行うところだとご理解いただいでよいかと思います。

〈診療の流れ〉

他院からの御紹介状がある患者さんは、1階初診受付にて受付後、3階西診療室、高齢者歯科の受付に来ていただきます。

紹介状をお持ちでない患者さんは、1階初診受付にて受付後、4階総合診療歯科にて問診をいたします。その後ご年齢やご体調を考慮し、3階高

齢者歯科を受診していただくこととなります。

初診時は当日来院された原因(痛み)などを処置を行います。さらに、今後の診療に必要な口腔内検査やX線写真撮影をさせていただき、患者さんのご都合のいい曜日等を考慮し、担当医を決めます。

〈診療で特徴的なもの〉

認知症や歯科恐怖症などのため精神鎮静法の併用が必要な方は、歯科麻酔科、顎顔面口腔外科をはじめとする各専門診療科のご支援をいただき、治療を展開いたします。外来設備は、先に述べさせていただいた「口腔機能低下症」の診断に用いる器具、治療中の血圧や血中酸素濃度をリアルタイムに監視できる生体情報モニターや心が落ち着く笑気吸入鎮静器、訪問診療に対応できるポータブル歯科用ユニットなどを揃えています。

また、脳梗塞や心筋梗塞発作の予防のために抗血液凝固薬(ワルファリンカリウム)を服用されている方には、抜歯などでの止血に問題がないか確認できる検査キットが完備されています。

超高齢社会を迎えた日本において、健やかに日々をお過ごしいただけるよう微力ながらお手伝いをいたしたく、医局員一同、日々診療に取り組んでいます。



高齢者歯科 スタッフ

主催：昭和大学・昭和大学歯科病院 後援：大田区

第22回

昭和大学公開講座

暮らしと健康 ～お口の健康～

口腔がんの早期発見
・ 早期治療

代田 達夫
(顎顔面口腔外科・診療科長)

綺麗な入れ歯で
肺炎を予防しよう

岩佐 文則
(補綴歯科・診療科長)

お口の健康を守るには

蕪木 聡美
(お口の健康センター・歯科衛生士)

『白い歯』は美の基本

真鍋 厚史
(美容歯科・診療科長)

日時 2019年10月5日(土) 午後1時～3時

会場 昭和大学歯科病院 6階臨床講堂
大田区北千束2-1-1

会費 無料

先着
100名

参加費無料！申込不要。受講者にはもれなく歯科用品をプレゼント！



昭和大学歯科病院

<http://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

* 氏名入りの受講証を発行ご希望の方のみ事前申込が必要です。
当院1階 備え付け申込書がメールで お申し込みください。

編集後記

7月末の梅雨明け以降、晴れて日差しが強く、空気を冷やす雨も降らず、厳しい暑さが続いています。今年の8月上旬の東京の平均気温は30.0℃と平年よりも3℃以上も高く、平均気温が30℃を上回るのは、猛暑の年だった1994年以来25年ぶりとのことです。皆さま、体調管理には気をつけてお過ごしください。(K.Y)

